

## 認知症作業療法 活動計画（概要）

宮城県作業療法士会（以下、士会）では、地域包括ケアシステムへの参画をより推進していくため、今年度組織を再編、新たに「部局連携室」を設置し横断的な取り組みを実施していく。コロナ感染拡大により、研修会の開催や各事業への参画等が足踏みしている状況ではあるが、昨年度に引き続き、①研修会の開催、②認知症初期集中支援事業への参画推進、③認知症カフェの運営、④他団体からの協力要請に対する人材派遣を行っていく。

## 認知症研修

昨年度から実施している、地域包括ケアシステムに資する人材育成のための研修会を、今年度は士会教育部主催の研修会としてオンラインにて予定している。認知症がある方、MCIの方の初期の段階からの生活支援、症状悪化防止のための総合的な支援について学びを深められるような内容を企画している。



令和元年度研修会  
「介護予防・日常生活総合事業/  
認知症の人の生活支援編」

## 認知症初期集中支援事業への作業療法士参画推進

仙台市の依頼をうけ、2018年4月より5名の作業療法士（以下、OT）を派遣、仙台市5区に各1名ずつ配属となっている。①本人主体のかかわり、②支援者支援、③在宅期間の延長に向けて、訪問や毎月2回開催される認知症初期集中支援会議へ参加している。昨年度から徐々に相談・訪問事例は増加しており、多職種で連携した取り組みが展開されている。また、他市町村でもOTが事業に参画しており、今後も互いに情報交換を行いながら、宮城県における認知症の人の生活支援推進に取り組んでいく。

## 認知症カフェ事業への参画

大河原町と仙台市で開催している認知症カフェに参画。大河原町では、直営の地域包括支援センターが運営する認知症カフェに、地域の薬剤師とOT主体で、はつらつメイト（介護予防サポーター、認知症サポーター）と共同し携わっている。仙台市では仙台市薬剤師会と介護専門職、士会の共催で運営している。いずれのカフェも、参加者同士の語りや体操、作業活動、ミニ講話等を通じた住民参加型認知症カフェとなっている。

また、認知症介護研究・研修仙台センターが仙台市からの委託を受け、認知症カフェ支援事業の一環として開催している「認知症カフェ企画・運営者会議」に、今年度参加の機会を頂いた。市内で開催されている多くの認知症カフェと情報交換を行いながら、各団体との繋がりを広げていく。

## COVID-19（新型コロナウイルス）の影響・対応など

新型コロナウイルス感染拡大により、認知症カフェが中止となる期間があった。中止の期間中、参加者の方々に向けて「認知症カフェ通信」を作成。いつもカフェで行っている講話内容や、自宅でもできる簡単体操メニューなどを添付し参加者に郵送、情報発信、参加者同士のつながりを維持するための働きかけを行った。

また、認知症初期集中支援事業では、会議の規模を縮小し開催、感染予防対策を講じた中での訪問を継続している。



認知症カフェ「安心オレンジネット通信」

## 今後の展開

上記の取り組みに関して、いずれも新型コロナウイルスが落ち着いた際には活動を拡大していけるよう、準備を押し進めていく。